



会員寄稿

## 「たくましく生き抜くことを願って」

教頭 林田 玲子

このたびの異動で、宇和特別支援学校より赴任してまいりました。どうかよろしくお願いたします。また、日頃から本校の教育活動に御理解と御協力いただきありがとうございます。

「苦手は伸びしろ 武器に変わる。」「人は五年努力すれば、想像以上のところに到達できると思う。」これは、愛媛県出身のサッカー選手「長友佑都」さんが、ある新聞社のインタビューで言われた言葉です。大学のサッカー部で応援太鼓をたたいていた彼は、五年後にイタリアの名門クラブであるインテルに入団しました。人は誰でも苦手なことや嫌いなことに対して否定的な気持ちになってしまいます。けれど、走ることが苦手だった彼は、それを武器にすればすごい選手になれると考えて走る練習を続けていくうちに走ることが楽しくなったそうです。試合後半になっても衰えない彼の走力は、今では彼の代名詞となりました。彼は、その当時を振り返り、「ぐんぐん伸びている時期はサッカーを楽しんでいる時期でもある。」と言われていました。自ら進んで苦手なことに挑戦し、ひたむきに努力を続けたからこそ言える言葉だと思いますが、彼の精神力はどこで培われたのでしょうか。

当時の長友選手のお母さんの談話を紹介します。親が先回りしないように心がけています。その代わりに、求められた時には何があっても話を聞いて、親なりの言葉をかけています。大事な試合に負けた時も、大きなけがをした時も、私は自分からは連絡をしません。それを驚く人がいるかもしれませんが、子供は子供なりの経験をします。親の役目は、子供の不満や否定的な気持ちを受け止めあげることだと思っています。見方を変えて良いことを探せば、成長するチャンスが掴めるし、味方を作れます。子供が自分で考えられるようになれば、どんな環境でも一生懸命生きられるようになると思います。

上述の言葉には、これからの社会を生きていく子供たちに、教師、保護者がどのように関わればいいのか、一つの答えがあるように思います。子供を力を信じ、一歩引いて見守ることも時には必要なのかもしれませんが。

今年度の努力目標は、『Initiative spirit』一進取の気概一です。教職員一丸となって、指導・支援してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

### 新学年・新ホームルーム スタート!

### ～集団宿泊研修 / 遠足 / カヌー大会～

4月17日(1年生)及び18日(全学年)、1年生は集団宿泊研修(国立大洲青少年交流の家)、2年生は遠足(愛媛県総合科学博物館)、3年生はカヌー大会を行い、新しいクラスメートや学年団の先生方との親睦を深めることができました。

